

令和4年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブラーニング、ICTを利用した授業を実践する。(各教科で研究授業を行い、全職員で検討を行う。) 令和4年度入学生から実施する「総合的な探究の時間」で使用する探究プログラム(ぼらぷら)を有効に活用し、生徒が自ら課題を発見し、解決していくための資質・能力を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングについては各科目の親和性を考察し、それぞれに合わせた取り入れ方を研究したいと感じた。ICTにおいては教員間での理解度・活用度に差が生じているのが現状であり、研究授業よりも練習会のようなフランクな取り組みをしていった方がよいように思う。 ぼらぷらは使いやすさや教材の内容が生徒の興味のひきづらさの点から、副教材的に使用しながらグループ活動を積極的に導入しながら課題を見つけ自分の考えをまとめ、プレゼンに結びつけるように指導している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングはこれから益々必要になると思います。引き出しをたくさん持てる様に指導して欲しいです。 ICTを利用した授業が多い時代なのでしょう。先生方も大変だと思いますが、あくまで手法だと思うので、活用できるようにそれぞれの生徒を導いてあげてください。 ディスカッションを含む、グループ学習によりプレゼンに繋がることを期待したいです。 順心中・高における深い学びとは何か、見せていただけるとうれしいです。 これからも綿密な計画で授業を進めてください。
	ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教室に電子黒板を設置し、教員側が日常的にICT機器を活用した授業を展開できるようにする。 生徒の端末を授業等で活用する場面を積極的に設けることで生徒のICTスキルの向上を図る。(電子教科書、スタディサプリ、googleフォーム、オンライン授業など) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在、ほぼ全職員がオンライン授業にも慣れてきたようである。非常勤の先生方も実施していた。但し、若手教員のICT利用の頻度、アイデアにベテラン教員は学ぶべきことがある。 スタディサプリの利用は定着していない。何回かは、皆で受講する機会を持ったり、定期試験の範囲に入れるなど工夫をしないと定着しないと感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育への環境整備をしてくれていることは素晴らしく、とても先々の努力が伝わります。 ICT機器の利用、スタディサプリ利用で、生徒の学力、学びやすさに繋がっていると思います。 コロナ禍が功を奏したと思います。しかし、授業は対面が基本であるし、大切にしていかなければならないと思います。 ICT教育時代、十分な活用を理想とします。推進にはには是非、力を注いでいただきたい。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
②進路指導の充実	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学&中堅以上私大（河合塾全国偏差値47.5以上）へ7名以上合格させる。【一般・推薦・総合型選抜を問わず】 ・高3生への面接・小論文指導を強化する。「チューター制（同じ教員が担当）」で行う。 ・学力向上、進研模試で全国偏差値50以上の生徒を総進は10%以上、特進は50%以上育てる。 ・基礎力診断&スタディサポートの事前対策を重視する。ベネッセハイスクールオンラインを教員がもっと有効活用し、Bゾーンを増加させ、Dゾーンを減少させる。 ・スタディサプリ活用を強化する。到達度テストに向けて各学年で計画を立て、家庭学習やHR活動等で利用させる。高3生は受験&入社試験対策でも活用させる。 ・個別指導学習を強化する。志望校が決まっている生徒には夏休み前から受験指導を実施する。推薦希望者の生徒も一般入試を見据えた指導を行う。 ・学習習慣を定着させる。スコラの活用を強化する。 ・進路目標づくりを充実させる。進路ガイダンス・適性検査・進路希望調査・オープンキャンパスを融合させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の特進クラスが、特進としての成果を十分に収めた。国公立大学5名、中央大学1名、順天堂看護1名と神奈川大学3名の現在9名。 ・チューター制は、効果的であった。チューター制導入前は、国公立の推薦は1/2～1/3の合格率であったが、今年は国公立大の推薦合格率は100%である。チェック・改善の継続的な指導が効果的なのだと思う。 ・今年度、総合進学スタイルは、他のクラス（特別進学スタイル以外）と同様に模擬試験の受験が希望者のみとなったが、授業担当は受験も考慮して授業を進めている。進路意識の向上のためにも、次年度以降は総合進学スタイルも全員受験の機会をつくる必要がある。 ・スタディサプリは、学年単位で活用しているが、学年教員の教科構成や、取り組みに対する熱意の格差により、利用の度合いに差が出ている。次年度は教科としても授業と並行した受験指導のシラバスを作ってもらい、「学力が伸びた」と数値で示せる成果を出したい。 ・スコラについても、担任任せ、さらに担任の多忙により生徒任せになっている。近年ICTに意識が行きがちだが、「書くこと」が脳を活性化させるのは、多くの学者や教育者が言っているので、スコラで「書く」ことをさせたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学実績としてはすばらしいと感じます。特進クラスの成果がしっかり形に表れている。数値からも、チューター制の効果はかなりあがっている。継続を！ ・進学指導の先生方の努力、生徒の努力が、国公立大学合格の結果に表れて素晴らしいと思います。 ・教育に対し、熱意を持って取り組んでいただいていることに感謝です。 ・医療系に強い学校は、これからの時代注目されると思います。合格者アップ。 ・スタディサプリについては、生徒達も面倒にならずに取り組んでいると思います。 ・コロナも緩和してきているので、大学進学への意識も高まっていると感じます。 ・変化する大学受験の傾向にも対応願いたい。 ・進路対策においても学園の特色を生かした教育に注視していただきたい。 ・生徒の個性を生かした進学にも力を入れて欲しい。 ・「多忙」は理由にならないというか、してはいけないと思いますが、「多忙」の原因がどこにあるのか考える必要はあるのではないのでしょうか。
	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った、自分のやりたい仕事は何かをよく考え、企業研究を十分に行う指導を実践する。 ・3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示する。 ・企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。（14社予定） ・同友会主催のオンラインによる企業説明会に積極的に参加させる。 ・企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。 ・徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階からの就職指導は、目的意識を持たせたり、良い意味での焦りを生むことになり、効果的であると思う。個人的には、二者面談を行っても、就職で明確な企業は決めていなくとも、職種・業種に至っては多くの者が方向性を定めていることが見受けられた。 ・高校2年から、冊子の利用、企業説明会・インターンシップへの参加等、キャリア教育を段階的に行なうことができた。 ・丁寧な面接指導で十分な成果が上がっている。就職後、短期間で離職することがないように、社会人になることへの意識高揚を図り、場に応じた言葉遣い等の使い分けの指導を行う。 ・卒業生に来校してもらい個人的に指導、アドバイスを受ける場は効果的であり、継続すべきである。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就職担当の先生が、早めに対策してくれたのが良かった。多少強引な声掛けが、生徒の考えや行動を良い方向に変える場合もあり良いと思います。（就職情報の伝達、就職先を迷っている生徒の相談） ・今までの卒業生の実績、そして先生方は生徒の特性を生かし、的確な判断と細やかな指導（特に面接指導）等、また生徒本人も努力し、内定率100%は素晴らしいと思います。 ・企業訪問、インターンシップの参入は、大いに効果があると思います。また、インターンシップ制度を大いに活用し、順心高校の生徒の素晴らしさをアピールしてください。 ・入学時より就業への意識が持てるよう時間をかけて御指導くださることで、成果に結びついていると思います。 ・就職後、早い段階で離職する卒業生の話を聞く。学校側として、上手くフォローをしてほしい。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法指導	<ul style="list-style-type: none"> 礼法教育の実践として、次の指導を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①校長講話による「本校の伝統や心の整え方」の学習。感想を書くことによる振り返り。 ②「your steps」に従った美しい所作。（初期指導、HR活動や学年集会、礼法授業） ③会釈、挨拶の励行。（朝終礼や登校時の挨拶、呼名された時の返事や姿勢、授業の前後の挨拶） ④食事作法を実践できる会食。（姿勢や作法） ⑤校風向上週間やマナーアップを通しての清楚な着こなし。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現行での生徒の校風に対する意識としては外発的動機による者の割合の方が多く見受けられ、教育の本質的には自覚による向上心の中からくる規範意識として定着させていきたい。自分（生徒）たちで学校のブランドをプロデュースするような取り組み・機会を与えて自発的・能動的な学校生活への参加を促していきたい。 「your steps」は入学時から卒業時まで、学習や生活など、あらゆる場面で利用できるようになっているが、活用が思うようになっていない。生徒指導課でシラバスを作り、活用を促進させる。 挨拶があまり実践できていない。礼法の授業の大切さや、身に付けば将来的に大変役立つものであることは多くの生徒が理解している。職員が根気よく指導、呼びかけをすることが大切である。 お茶当番や会食指導というのは本校ならではの特色であるが、会食については職員、生徒共に実施する意義を改めて確認し、積極的に実施する。 校風向上週間や校風検査でのチェック体制はきちんとできているが、その場凌ぎの生徒が多いのも現状。校風検査後の指導（普段の指導）を徹底する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出てから自信を持って生活できる基礎となるものだとということ、意識づけるといいます。 礼法に関しては、職員相互の意識の基、根気よく継続していただくことをお願いします。 「講話」を通して順心中・高の生徒とし、女性としての育成に御指導いただけますことを望みます。 多くの生徒が挨拶をしてくれるが、一部できない生徒もいます。 学校に来校した時にすれちがうと、生徒達が必ず挨拶をしてくれて気持ちが良いです。 他校には無い「礼法」の授業があるので、特に入学時より「挨拶」については重点的に指導していけば、自然と身についてくるかもしれません。 お茶当番は社会に出てから自分にとって自信につながるもので、実施した方が良いでしょう。 校風検査では手綱をゆるめず、きっちり指導する。（清楚な着こなしのためにも） その場凌ぎでも、校風を意識していることが大事です。（指導し続ける） 本校の事務の方々がとても感じが良いと思います。お客様に対する態度、お茶の入れ方など、良いお手本が身近にいます。 礼儀作法の大切さに早い段階から気づいて実践し、身に付いたら良いですね。 礼法のマナーは、進学・就職試験の面接でもとても重要なので、礼法教育の指導をしていただけて有り難いです。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「順心生としての自律」をめざして次の指導を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①清掃活動や整理整頓を通じた環境美化。私物の管理や清潔な生活感覚の育成。Clean up guidance にしたがって清掃。（スマホについては朝礼時に電源OFFを確認して収納庫へ入れ、終礼時に自分のものを取り出す） ②生徒会活動を通して愛校心の育成。週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢の育成。 ③登下校時における社会ルールやマナーの遵守。（スマホを使用する時の周囲への配慮） 「情報収集→まとめ→分析→報告」を確実に、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 一報を通して迅速な情報共有に努め対策を講じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「順心生としての自律」は礼法の授業に限らず、あらゆる場面を通して指導していく。 清掃を時間通り始めることや雑巾で丁寧に隅々まで拭くこと、前庭清掃でのほうきやちりとり、紙袋の使い方などができなくなっている。全体的に、以前より清掃を一生懸命に行う生徒が減ってきている。1年次の初期指導において清掃の仕方を指導する時間を設ける必要がある。また、(若い)先生方の研修も必要である。 週番の目標を生徒にどれだけ浸透させているか、言葉にして生徒に話す機会を持てるよう努力する。朝終礼での打ち合わせでも話題にあげる努力をする。 スマホについては校内の規則違反はかなり減少し、スマホルールが浸透してきたと思うが、校外での使用（ながらスマホや写真撮影）はまだまだ指導しなくてはならない。教員間の温度差もあるため、共通理解のうえ、指導に当たる。 第一報での情報共有はできていた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎日清掃して下校する生徒は「順心生」だけだと思います。毎日することが癖になっていて、「イヤイヤ」ではなく、「あたりまえ」になってくれていると思います。 清掃は徹底しづらいと思いますが、根気よく指導してください。 他校に比べたら綺麗だが、細かい所が気になる時があります。（階段や隅のホコリ、外のトイレなど） 生徒間の取り組みの差が大きいと、外から見ていると感ずります。 規律の正しさ、身だしなみの清潔さについては、順心生の評価は高い。 何のために校則があるのか、考えさせる時間が必要です。 近年「ブラック校則」が話題になっている。校則をゆるめるのではなく、見直そうということも必要になってくるのではないのでしょうか。 スマホ時代故に、対面で接する機会が少ない昨今、「言葉遣い」「身振り」に関心を持ち続けていただくことが大切です。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④情報発信の充実	学級通信 学年通信	<ul style="list-style-type: none"> クラス・学年の様子を伝えるため、年間で12回(平均して月1回)程度発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任の機転により、クラスと教員と保護者を繋ぐ情報媒体として施行することができた。 行事がある月は学級通信、行事がない月は学年通信を発行すると、年度の初めに発行月を決めておけば、各クラスで年間12回を達成できると考える。 学級通信は保護者との良いコミュニケーションツールではあるが、生徒から確実に保護者の手に渡り、目を通していいのか疑問である。読んだかどうかを確認するシステムを導入したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭とのパイプ役として必要ですので、月一回の発行を希望します。 月1回の通信は確実なものであって欲しい。 あまりクラスの状況がわかりません。子どもからの話で、何となくわかる感じですので、学年・学級通信は可能な限り発行していただくと有り難いです。 新入生に対しては、文だけでなく、写真付きで生徒達の様子が見える内容になっていると保護者が安心できるかもしれない。
	HP・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを随時更新し、最新の情報発信に努める。きずなネットを有効活用できるように職員研修会を開催し、利用できる職員を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの管理担当者の尽力もあり、整理されて見やすいものになっている。また、情報提供の回数や内容も増える分、保護者との距離感も近くなり効果がある。 少しずつ連絡網の活用方法を理解する教職員が増え、昨年度よりも上手く発信できた。来年度導入予定の新しい連絡網についても良く調べて、スムーズに活用できるように準備する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページはとても細かく整理されていて、見やすくなっていると思います。更新される頻度も早く、情報がタイムリーで素晴らしい。 更新度合がとても良いと思います。 たまにしか見ないが、見やすかった。 学校のPRとして情報発信に努めて欲しい。 サッカー部は独自にホームページを持っている。 美術デザインスタイルのFacebookは、質が高く、行事ごとのお知らせもタイムリーにされている。 コミュニケーション不足にならないよう、連絡網をうまく活用できていることは喜ばしい。
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を含めた日常の健康観察の実施(個人健康観察表・クラス健康観察カード) 新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインの作成と状況に合わせた検討。 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密にする。 感染症等の状況や生徒の成長、実態に即した健康教育の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内での感染症発症件数は思っていたよりも低い値を保っていた。生徒一人一人も(意識のなかだるみはあったものの)最低限の方針、感染予防については、理解・協力していた。健康チェック表の提出も指導が良くできていた。 カウンセリングを必要とする生徒が増えているのであれば、カウンセラーの来校回数を増やせないだろうか。カウンセリングを受けることで生徒の違った視点から情報を得られ、生徒指導に大変役立っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ(集団)感染対策がきちんとされているのか、感染数は低いと思いました。 コロナ禍をよく乗り切っていると思います。不自由な生活を強いられる中で伸び伸びできたことは、健康管理のたまものだと思います。 マスク以外はほぼ通常の学校生活が送れて良かった。 感染症は、まだまだ毎日発症している様なので、十分注意が必要である。 オンライン授業のシステムが確立されているので、もしもの時があっても安心して過ごせた。 カウンセラーを含む適切な指導の基、健康維持に繋がっていることは有り難く、学生生活をプラスに導くことであって欲しい。 急に学校に登校できなくなってしまう生徒も出てくると思います。メンタルケアを保護者学校(先生)と連携して行う必要があると思います。
⑥安全管理	避難訓練 防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や集団下校訓練、防災講話、消火訓練等を実施し、生徒の防災意識や危機管理意識を高める。(7月、12月) 職員を対象に消火訓練や救急対策講習会等の訓練を実施し、職員の防災意識や危機管理意識を高める。 災害時の職員の役割分担の周知徹底を図る。(7月職員研修) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国で自然災害による被害が多発している現状において、もはや他人事ではない。危機管理意識を持ち、職員の被災時の役割分担を定期的に確認することが大切である。 自分の住んでいる地域の防災情報を確認することができる、台風等の気象災害、地震・噴火等のシミュレーションは、生徒の防災意識や危機管理意識を高めるためにも定期的に実施する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災から12年が経過した。防災への意識が希薄にならないよう、努めていただきたい。 災害もその年、その時により違いますが、年々危険度が高くなってきている様に思われます。あらゆる面を想定して対応できるようにマニュアル化し、訓練できることはやって欲しい。 いろいろな場所、状況を想定して訓練するのは良いと思う。しかし、「明日は訓練です」「これは訓練です」などの予告をせずに行う訓練も良いのではないのでしょうか。 貴重な実体験により、意識の向上に期待したいです。 自分を守ることが重要ですが、普段の生活で困っている人への声掛け、支援ができる人は素晴らしいですね。 災害での「登校あり、なし」が前もって(登校前までに)わかるようであれば、メールで連絡があると有り難い。